

中務恵美子 P10~

2014年 3月



輝く女性  
応援会議

# キラリ! 花咲く物語

～「女性のチャレンジ賞」受賞者の軌跡～



# 地元密着型の子育てを

# これからも支えていきたい

お母さんの困りごとのひとつ一つの物語が一番大切



なかはし えみこ  
**中橋 恵美子氏**

特定非営利活動法人  
わははネット  
理事長

略歴

平成10年、子どもとの遊びを中心にした育児サークルから、子育て支援のための情報発信を目的とした育児サークル「わはは(輪母)net」を仲間呼び掛け旗揚げ。翌11年に子育て情報誌「おやこDEわはは」を発行。平成15年には親子のいこいの広場事業を始め。また、携帯電話を利用した子育て情報配信サービス「わははメール」事業をスタートし、翌16年には「子育て応援タクシー」事業を実施する。また、平成21年経済産業省のソーシャルビジネス55選にも選出される。ニッポン子育て応援団メンバー、文部科学省中央教育審議会臨時委員等を歴任。

子どもがいたからこそ、今の私がある(発想の転換が大事)

私は、事業を行っている香川県の生まれ育ちなのですが、夫の仕事の関係で茨城のつくば市で、初めての子育てをしていた時に、実はとてもショックなことに気づきました。子どもが生まれると、もちろん子どもは可愛いし、一緒にいると嬉しいことばかりなのですが、その一方、子どもがいるとどうしても、あれも出来ない、これも出来ない、出来ないことが増えてしまったことが、とても悲しかったのです。その後、ほどなくして家族で地元に戻りました。そこで出会ったママ友達と、子どもが生まれたことで当時、出来ないと感じていたことをどうすれば出来るようになるだろうとみんなで話しているうちに、子どもや旦那さんのためだけでなく、お母さんが自分らしく生きるためにみんなで活動しようと、ある意味、勢いで子育てサークルを立ち上げることになりました。普通の主婦だった私が、気がつけば子育て支援、お母さん支援の事業を展開しているのです。今の姿は、当時は想像もつきませんでした。これもひとえに、子どもがいたからであり、子どもがいてもこれまで以上に何事も出来るようにと考えて、行動してきたからにほかなりません。何事も発想の転換というか、見方を変えることがとても大事だと思っています。

今は、社会的起業とか、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスが注目を浴びてますし、そのような流れで私

この事業が語られることも多いのですが、実は、当人たちにはあまりそんな意識はないのです。わははネットを立ち上げた当時、ここ香川県や高松には、子育て情報誌がありませんでした。東京発の情報が多く、生まれて間もない子どもを抱えている私たちが知りたい地元情報がなかなか手に入らなくて、困っていたのです。そこで、最初、地域のタウン誌を発行している会社に、地域密着情報誌の発行をお願いに行ったんです。ところが、ニーズがあるのはわかるけれど、売れるかどうか分からないことに、我々はビジネスなので手は出さないとはっきり断られ、「世の中で一番お金を持っていないでしょ、あなたたち」と言われたんです。その一言が、とても大きかったですね。「だったら自分たちで作る!」と思ってしまったんですね。

このお母さんを助けたい!というリアルな物語が行動のエネルギー

この分野で出会う方々には、社会を変えたい、社会はこうあるべきと思うって行動している人も多くいると思うのですが、私自身は、そこまで社会を強く意識しているというより、本当に困っている一人ひとりのお母さんを助けたい、支えたいという気持ちが一番のエネルギーですね。そして、その困っているお母さんたちの物語は、私の体験でもあるのです。

子育て情報誌の第一号を発行してみると、とても多くのお母さんからお手紙や連絡をいただきました。当時、私

## 年表

20歳

建設会社就職

25歳

つくば市にて、結婚・出産

29歳

子育てサークル輪母(わはは)ネットを設立し、地域密着型子育て情報誌「おやこDEわはは」発行。その後、広場事業、情報配信事業を展開する

33歳

わははネットに改称し、特定非営利活動法人の認証取得

35歳

子育てタクシー事業の立ち上げ

41歳

平成19年度(第4回)女性のチャレンジ賞受賞

43歳

経済産業省ソーシャルビジネス55選に選出

45歳

厚生労働省ポジティブアクション展開委託事業を受託



## 特定非営利活動法人わははネット

平成10年地元香川県で中橋氏が子育てサークル「輪母(わはは)ネット」を設立。翌11年に香川県初の地域密着型子育て情報誌「おやこDEわはは」創刊。法人格取得後、親子のひろば(現:地域子育て支援拠点)を商店街の一角でスタートし現在3拠点運営。平成16年には子育てタクシー発案、全国に普及。同年スタートした携帯電話を使った子育て情報発信のシステムも全国に広がる。現在16名の雇用スタッフは全員女性。子育て・女性・まちづくり支援をしている。



私たちは専業主婦の集まりでしたが、そこに、働くお母さんからお手紙をいただきました。今で言うところの病児保育のケースなのですが、子どもが病気になるのと、職場や保育所をはじめとして多くのところに頭を下げなければいけない。子育てをしているのになんてこんな後ろめたい気持ちになるんだろう。それがやりきれないと切々と訴えていました。「この人を助けたい」「きつとこんな風に悩んでいる人はたくさんいるに違いない」と感じ、それならこのことを「香川県で一番偉い(!?)人に相談しよう」と思っただけです。そこで、情報誌の第二号に香川県知事インタビューを企画して、この手紙を読んでもらおうと考えました。今思えば、本当に無茶だなと思うのですが、何も知らない主婦がいきなり県庁に電話して「知事に会わせて下さい」と。秘書の方も困惑して「どんな業界の方ですか?」と聞くので、私は「お母さん業界です」と真面目に答えました。その後、紆余曲折ありましたが、当時の県知事にインタビューとお手紙を読んでもらう機会をいただき、このこともきっかけとなり香川県で初めて病児保育のサービスが展開されることになりました。本当に嬉しかったですね。案外、社会って私たちでも変えられるんだと思いました。今で言うところの政策提言が、偶然出来てしまったんです。

その後、妊娠中や乳児連れでのタクシー利用で苦労したという話を聞き、平成16年に、子育てにやさしい「子育てタクシー」の企画書を作り、地元タク

シー会社に提案しました。ドライバーを「子育てタクシードライバー」として養成し、平成18年には「全国子育てタクシー協会」が発足しました。今では、この取組は全国に広がっています。

## 居酒屋わはは?をやりたい

現在も、立ち上げ当時と事業の柱は変わりません。でも、事業規模は本当に大きくなりました。乳幼児を対象とした、子育て情報誌(年6回)と子育てひろば事業、メールを中心とした情報発信事業の3つが今も基本です。それに加えて、最近では、ポジティブアクションの展開事業やワークライフバランス推進のための事業などに関わらせていただいています。私たちの強みは、地元密着で、かつ子育て中のお母さんの気持ちが一番わかっていることだと思っています。香川県では、まだまだ必要とされている事業だと思しますので、この3本柱をしっかりと運営しながら、新しい事業を展開して行きたいと考えています。

実は、私の夢は「居酒屋わはは」をやりたいんです。わははネットを通じて出会う、行政や企業の人をはじめ多くの人も、いろいろ悩んだり、愚痴をこぼしたかったり。そんなことを私はいろいろ聞いてあげたい。でも、タダではいやなので、居酒屋で時間を過ごす中で、そんな役回りが楽しいかなと思ってます。

(文・船木成記)